

【おばま環境保全活動】

～みんなで環境を考え、みんなで行動しよう～



「小浜美郷小学校 環境学習」を紹介します

令和4年9月

『活動者』

参加者：小浜美郷小学校 56人（4年生52人、引率4人）

講師等：福井県立大学、環境コンサル BO-GA、コウノトリの郷づくり推進会、
小浜市農政課・環境衛生課

『活動内容』

「見つけよう！みさとの自然環境秘密～コウノトリが舞うふるさとを目指して～」をテーマに、国富地区内の生き物調査と水田魚道、退避溝などの施設見学を行った。

『活動詳細』

9月21日（水）、国富地区で、自然環境学習の一環として、**生き物調査**と、**水田魚道^{*1}、退避溝^{*2}などの施設見学**を行った。

当日は4年1組と4年2組に分かれて、各々ビオトープ（熊野区）、水路（太良庄区）で生き物調査を行った。

熊野区のビオトープでは、児童たちが、タモ網とバケツを持って、水辺にいるヤゴ、ツチガエル、アカハライモリ、ゲンゴロウなどを採取し、たくさんの**生き物が生息**していることを確認した。

また、太良庄区にある水路でも、タニシなどの水生生物やハゼ、メダカ、ドジョウなどの魚を捕まえ、**たくさんの生き物を観察**することができた。



ビオトープでの生き物調査の様子



水路での生き物調査の様子



採取されたタニシ



採取されたハゼ

水田魚道、退避溝の施設見学では、コウノトリの郷づくり推進会から水田魚道、退避溝の役割やコウノトリの餌場環境を整備することの大切さについて説明があり、児童らは、興味深そうに聞き入っていた。



水田魚道、退避溝見学の様子

児童たちは、自然環境学習を通して、国富地区の生き物や自然環境に触れ、改めてコウノトリが飛来する地元の自然の豊かさを実感していた。

*1 退避溝：田んぼの一部を溝状に掘り下げることで、水生生物が中干しなどの渇水時に退避できるようにした設備

*2 水田魚道：段差のある水田と水路を人工的につなぎ、魚が出入りできるようにした設備